



植物標本の制作を終えて

なな山緑地植物標本プロジェクトは、2015 年 4 月に首都大学東京、牧野標本館の加藤英寿先生の指導のもとに発足し、この春終了しました。このプロジェクトでは、なな山に生育する維管束植物(木本、草本、シダ)の花の標本を作成することをめざして収集にあたり、標本は牧野標本館へ寄贈しました。寄贈点数は 383 点でした。雌株、雄株があるので種類としては木本 126 種、草本 227 種、シダ 17 種、合計 370 種でした。発見できない植物を含めると 400 種くらいの植物がなな山にはあるではないかと思えます。

採取は高い木の上で高枝ばさみを使って花のついた枝を取ったり、雨の降りしきるなか、どろんこになって根を掘ったり、ホオノキやヤマユリなどの大形の植物は乾燥を依頼するべくバケツごと標本館に運び込んだり、皆が夢中になって標本を作り、その手応えを感じることができた活動だったと思います。採取はしたもののシダをはじめイネ科、カヤツリグサ科など同定できない植物は長池公園園長の内野秀重先生に協力をお願いしました。

維管束植物の花の収集は終了しますが、また違う形で継続できれば、楽しくより深化できるのではないかと思います。コケ類は未完ですが、近日中に収集したいと思っています。

(中原)

ルーペの中に広がる孢子世界を垣間見る 相田幸一

なな山緑地の植物採集も大詰めを迎えるころ、シダ類の標本を集めることとなった。はっきりとは区別できないが、何種類かのシダがあることは明らかであった。その区別は細かい葉の形・つき方、葉裏の孢子囊の有無と形状、軸の立ち方などで違う名前がついているようだ。10 数種類を専門家の方に同定してもらい、説明を受けたが、数種類の区別がかわらうじてつくくらいにしかならなかった。それでも、根気よく一種ずつ丁寧に標本としていった。この貴重な体験は、孢子世界への興味を一段と高めていた。

ちいさな花たち 飯田 歩

紫色の花が好きでオオイヌノフグリやタチイヌノフグリ、ツユクサとたくさんの種類を標本にさせていただきました。弱々しい花なので、寒いと花弁は閉じてしまうし、小さい花がどこに

あるのかわからなくなってしまう。虫メガネで確認しながらピンセットでそっと新聞に挟み込む作業は大変でした。しかし、日々忙しいなか大好きな花をじっくり眺め、丁寧に作業するというのはとても心地よい時間でした。

シュンランの根っこはゼンマイのよう 石井栄美子

牧野標本館に納め、学術標本として扱われる押花作りは、慣れるまで少々緊張の作業でした。採取は花を痛めないよう、根を傷つけないようにほとんど 2~3 人がかり。根は水洗いし、葉は表裏を配置、花と共に仮押しができるひと安心でした。家に持ち帰ってからは毎日新聞紙を替え、手に持って硬く水平になれば乾燥完了。手間と時間はかかるものの変化しながら標本に近づく姿を見るのは楽しい瞬間でした。担当したシュンラン、キンラン、なな山の希少種コクランは特に印象深く、繊細な美しい花の根っこは予想に反し太く、力強くダイナミック。生命力に溢れ、それぞれに特徴がある植物達に魅了された標本作りでした。

なな山からの貢ぎ物 佐々木まゆみ

懐かしい気持ちで始めた採集でしたが、思った以上に大変な作業でした。特に決められた大きさに収めるにはどうしたらいいのか悩みました。そのままの状態で重しをし、乾燥が始まってから紙の大きさに収めれば良いと分かってからは植物の細部の美しさや変化を楽しみ作業が面白くなりました。私はほんの一部しかお手伝いができなかったですが、またとない貴重な体験を共有し、お仲間に入れて頂きありがとうございました。



講習会で標本の作り方を学ぶ

クロムヨウラン：寄せ集めの標本 中原君代

へんなもの発見。アズマネザサの根元に生える細い針金細工のようなものは前年の菌従属栄養植物、クロムヨウランとのことでした。最近、注目されてきた光合成をしないラン科の植物のひとつです。8月には新たに1本が出てきましたが、1本では採取できないので、標本には前年のものと思われる個体2本、触って落としてしまった花(長さ約12mm)ひとつ、蕾の写真2枚という寄せ集めの標本になってしまいました。他の標本のような美しさや存在感は感じられませんが、貴重な資料としてお役に立つことを願って提出しました。

アオキの変身 南雲玲子

担当の12種ほどの中で一番手をやいたのが「アオキ」。肉厚の葉っぱの水分が抜けてちゃんと標本になるまでに約3カ月。あまりにも変化がないので何度も不安になったり、長期の留守中に白いカビがうつすら付いて慌てたりと、かなり振り回されました。出来上がりは、洋服の色にしたら最適な「黒に近い深い緑」。どこにでもある「アオキ」も、標本にすれば魅力的な色の深さを持つ絶品に変身です。

植物標本作製に出会って 名黒二郎

なな山の自然と関わりを深めたいとの思いで標本プロジェクトに参加しましたが、根から掘り上げて花までを新聞紙半面の中に収めて押すのはなかなか形が整わず、根気と器用さが求められ苦戦しました。なな山では春、夏、秋に咲く花の多様さは素晴らしく私が手がけたのは10種ほどですが、標本を作ってみて更になな山の魅力に触れた思いです。

オオシマザクラ 正岡洋子

植物達は各々に個性的で繊細な感情を持っているように思います。標本に掛かる時、私は優しく語りかけます。大島桜を手にした時は心が震えました。花びら一枚一枚の間に薄い和紙を挟み込み、更に柔らかい紙で花を包み、紙を小さく切ってクッションにしていけます。終わった時は夜が明けていました。祈る思いで毎日外側の新聞紙を取り替えました。完成した姿は凜としていて、もう近づき難い思いがしました。忘れられない花となりました。

ヤブマメの隠れた一面 水倉路子

標本作りもひと通り終わりかけた秋に、クズの繁みにからみついたヤブマメを採集。いつものように名黒さんにスコップで根を掘ってもらう。広場で南雲さんとやっとの思いで絡んだつるをほどき新聞紙にはさむ。花と小さなマメが出来ていて、根にも根粒菌があつてまずまず。1月に内野先生の同定直前、中原さんから連絡が入る。根粒菌は閉鎖花では？そ

の上、地上にも閉鎖花があるらしいとの指摘。おおあわてでルーペで見ると、それらしい小さな物体、地上のマメの出来始めと思っていたものも閉鎖花のようだ。いつも除草で悩まされていたヤブマメの隠れた一面。植物ってこれだから面白い。

標本作製プロジェクトに参加して 宮崎 裕

このプロジェクトに参加の動機は、普段目にする植物の葉や花だけでなく、細かい根の先端まで標本として制作出来る繊細さに惹かれたから、と思います。標本の同定過程では、図書館やインターネットで調べるので、その植物について今まで気付かなかった事が判る楽しみがありました。標本作りに必要な道具を真似て自作し、意欲が有ったにも拘らず、標本作製はほんの数点で一番少ない結果に終わってしまいました。標本の制作の素晴らしさは、ただ植物を見ていては気付かないかった事をはっきりと認識する事でしょう。例えば、スギの標本で言えば、花粉症の原因の雄花は枝の何処に、雌花や前年の球果はどの様に付いている、等を知る事が出来る事でしょう。又、花の咲く植物の標本では、採取するタイミングが大切な事を教わりました。ホオノキの開花時に、梯子に登り高い所の枝の採取を手伝った事も思い出の一つです。

植物採集を終えて 湯元八重子

牧野といえば「牧野すみれ」くらいしか頭にない私が、高山植物が好きというだけで、このプロジェクトに手を上げましたが、途中でやめたほうがいいかもと思った事もありました。が、なな山を植物を探しながら歩き、根ごと掘り出したそれを洗い、新聞の上にのせた時の新鮮な驚き、私達の回りにいつもあるすべての草や花に名前があり、出来上がった植物の美しさ。迷惑をかけながらも、やめないで良かった。最後のネコハギは、うまく出来たでしょうか。



牧野標本館で行われた完成標本のお披露目会

「第3の人生」

南雲玲子

花の名前が覚えられない、見分けられない。樹の名前が頭に入らない。体を動かすことがそんなに好きではない、生来のインドア派であると最近気がつきました。花も樹も覚えが悪いのは、きっと自分は苦手なのだと思うことにしています。細かい手仕事も苦手。でも、もう落ち込むような年齢でもないし、ネ。長い間、自分を見失っていたのか、元々ボンヤリしていただけなのか。でも根は真面目(ホント)。

持ち時間を考えて何故ここに来るのか考えてみたけど、ついぞわかりませんでした。行きがかり上、体力づくりのため、里山はただただ気持ちが良い。どれも嘘ではないけど後付けのような気がします。自分でもわからないものに、無理に理由はいらないというのが結論。

何かに迷った時は頭で考えることをやめて、体がグラッと傾いたほうを選びます。体の方が正直。今は、体がなな山に向いてくれるので迷いはないのですが、時間が長持ちしないのがちょっと困ったところ。午前中の作業だけで帰宅してゴメンナサイ。ほとんど不良ですが、この会の在り方はとても寛容。弾かれないで参加できていることに感謝しています。

今一番の関心事は弥生時代から縄文時代あたりの「古代史」。たまたま出会った書物が語る史実と、自分が教わったことのあまりの違いに驚き、本当のところをどうしても知りたくなりました。現存する史料が少なすぎて、同時代の中国史書に頼る謎解きのような実情。「邪馬台国」のありかも、「倭弥呼」の実像も茫洋として捕まえられず、日本古代史学会は永いこと未解決状態です。まだ九州王朝の入り口ですが、1万年続いたと言われる縄文時代は、もっと謎めいた表情で遠くから手招きしています。

自分はなぜ古代史にこんなに心惹かれるのか。それも知りたくてせせと読書三昧の毎日なのですが、時間の確保が思うようにいかず、終りまでにどこまでたどり着けるやら。全く基礎がないので師を乞いたいのですが、もう少し自分のレベルを上げたら周りを見渡してみたい。気がつくとぼんやりしていて、頭も体も古代に飛んでいきがちな「第3の人生」がスタートしました。



第17期 GV 初級講座なな山で開催

4月28日(土)第17期グリーンボランティア初級講座がなな山で開催された。天気は晴れて絶好の講座日和。早朝から展示などの準備、9時半にスタートした。

集まった講習生は26人、川添会長の司会で例年の通り挨拶、説明、柔軟体操、講義があり、10時半頃より相田さんの案内でなな山の見学と説明が開始された。折から、キンラン、ギンラン、エビネ、カザグルマ、ハンショウヅル、など花盛りの中、西の谷→西の山→東の山→中の山→中の谷の順に回りながらの、里山の昔と今の違い、三つの山のそれぞれの特徴、アズマネザサの育成など興味深い内容の解説を講習生は写真を撮りメモしながら熱心に聞いていた。

午後からは、東の山で笹の手刈りと刈払機の安全な使い方の学習があり、道具の手入れをして、午後3時頃無事終了した。盛り沢山の内容であったが、講習生は緊張感を持って熱心に学んでいた。

なな山の魅力が十分伝わったよい講座であった。(鎌田)



なな山植物誌

タマノカンアオイ 多摩の寒葵 ウマノスズクサ科

どことなくヘンな花です。花卉と思われる部分は花卉ではなく、萼が発達してこのような壺形になったものです。もっとヘンなことがあります。ある研究者によると、臭いニオイがするのでハチではなくキノコバエ(全長3mm)がやってくるそうです。キノコバエは雌しべと雄しべのある花の奥深くに入って授粉の手伝いをし、間違えて卵を産みつけます。卵は孵っても成長することはないとのこと。鮮やかな色もよい香りもなく、葉に隠れるような目立たない生き方は、キノコバエを標的に子孫を残そうとするしたたかな戦略のようです。その姿はキノコに擬態しているのではないかとも見られています。

タマノカンアオイの知られざる世界ですね。(中原)



No. 332 2018年 1月14日(日) 晴れ 気温 9℃ 参加者 28人 なな山15周年節目の年。山初めの神事を行い一年の安全祈願。森林会の川添会長による安全講習会も行われた。 ● 作業/山初めの神事。安全講習会。西の山のくず掃き、落葉溜めへ運搬。 ● 観察/ウメ (紅梅) 	No. 333 2018年 1月28日(日) 晴れ 気温 3℃ 参加者 14人 山には雪が残る寒い活動日。作業は午前中のみとした。 ● 作業/緑地内の雪害による折れ枝の調査。薪割り。廃材を利用したモニュメント作り。 ● 観察/キチジョウソウ  
No. 334 2018年 2月11日(日) 晴れ 気温14℃ 参加者 21人 作業前に皆で緑地内を観察し、伐倒する木の選定などして準備をしてから作業にかかった。 ● 作業/コナラの伐倒とホダ木作り。伐倒したサクラの運搬。階段補修。 ● 観察/ウメ (白梅) 	No. 335 2018年 2月25日(日) 晴れ 気温 8℃ 参加者 21人 樹高のある枯れマツの伐倒には時間がかかった。 ● 作業/発生材処分場の整理。中の山枯れマツ等の伐倒と処理。アズマネザサの倒れ起こし、間引き。チェーンソーや刈払い機の手入れ。 ●観察/フキノトウ 
No. 336 2018年 3月11日(日) 晴れ 気温12℃ 参加者 22人 朝の空気は未だ冷たいが、活動に適した天候になって参加者が多くなってきた。 ● 作業/クヌギの苗を提供の為、持ち出し準備。西の山の道、階段補修。東の山枯れ木の伐倒。春植えの畑の準備。 ● 観察/カワズザクラ、シユンラン、アセビ。 	No. 337 2018年 3月25日(日) 晴れ 気温 18℃ 参加者 25人 平成29年度の総会はスムーズ進行し無事終了。午後は穏やかに晴れたなな山で作業。 ● 作業/ シイタケとナメコの菌打ち。西の山道の補修。サトイモ用畝作り。 ● 観察/ニオイタツヅミ、ヒゴスミレ、モミジイチゴ、ヤブレガサ 
No. 338 2018年 4月 8日(日) 曇 気温 18℃ 参加者 19人 活動し易い日になり、枯れ木の伐倒や階段の補修等々、皆でそれぞれの作業をした。 ● 作業/西の山遊歩道階段の補修。サトイモの植え付け。枯れ木の伐倒。ベンチの補修。 ● 観察/エビネ、ウワズミザクラ、タマノカンアオイ、キジムシロ、チゴユリ。 	No. 335 2018年 4月22日(日) 晴れ 気温26℃ 参加者 17人 緑地のあちこちに花が咲き、観察が楽しい時期になった。 ● 作業/緑地内の希少植物観察と保護。ダイコンの間引き。ベンチの座面と脚の調達、ベンチの設置。 ● 観察/オオアマナ、キンラン、ササバギンラン、ヤマツツジ 

3月20日(土)、21日(日) 多摩エコ・フェスタ2018

3月17日(土) 南鶴巻小学校 なな山緑地観察

4月28日(土) GV 初級講座 なな山緑地

毎週火曜日 なな山めかい木エクラブ

なな山だより 第43号 2018年 5月13日発行

発行 なな山緑地の会

発行責任者 高木直樹

住所 多摩市和田 1394-13

ホームページ <http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>

編集委員 鎌田文雄 飯田歩